



NEC伊草さん解雇争議 第9回口頭弁論&第3回支援する会総会

【証人尋問は6月22日】

NECグループのNECディスプレイソリューションズから、不当に解雇された伊草貴大さんは、職場復帰を求めて闘っています。4月20日に第9回の口頭弁論が横浜地裁で行われ、支援者ら約40人が参加しました。

6か月ぶりの法廷となり、左陪席の裁判官が交代して弁論が更新されました。伊草さん本人と弁護士から、事件の概要と争点についての陳述が行われた後、証人採用について裁判官から判断が示されました。

証人として、伊草さん本人と会社の人事部長が採用されたうえで、伊草さんを宙づり状態に拘束して会社内から排除したことについて、目撃した伊草さんの父親が証人採用されました。また、原告側から申請した被告の医師本人（誤った診断で会社に解雇の口実を与えた）については留保となりました。証人尋問は6月22日の10時30分から夕方まで行われることも決まりました。

裁判後の報告集会では、年内・年度内での判決も考えられる山場を迎えたことを共有し、運動を強めていくことを確認しました。

【闘いに悔いはない】

「NECの不当解雇とたたかう伊草さんを支援する会」の第3回総会が、4月25日に行われ34人が参加しました。

連帯の挨拶で神奈川労連・山田事務局長は「コロナ禍において解雇や賃下げなど違法行為が横行している。まともな働くルールを職場で実現するためにも、大企業職場の伊草さんの闘いは何としても勝利しなくてはならない」と強調しました。

1年間の運動では、団体交渉で解雇撤回を継続的に迫っていることや、社長宅を訪問し直接社長に解雇撤回を迫ったことなど、精力的なとりくみが情勢を切り拓いていることが報告され、成果を確信に職場復帰を実現させる運動方針が提起されました。

弁護団から最終局面となる地裁の状況が報告され、また、支援者からは運動強化の補強意見やともに闘っていく連帯の決意が述べられました。

最後に、伊草さん本人から、電機情報ユニオンに出会い闘いに至った経緯も述べたうえで「私は今年で30歳になる。20代後半の3年間は貴重な時間だが悔いはなく、職場復帰まで闘いぬく」と思いのこもった決意が述べられ、大きな拍手で包まれました。

